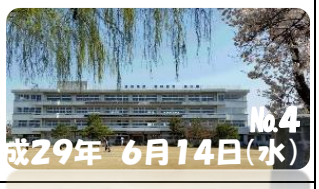
Ｈ２９塩川小学校　校長室だより

さわやか



No.4
成29年 6月14日(水)

塩川小学校の強み

教師同士の学び合い・教え合い

子ども達の素直さ、礼儀正しさ、活動的な姿に日々感心させられています。

食堂のおばさんを、「素敵！」と感動させた修学旅行での６年生や自発的に朝のボランティアをした５年生。あいさつがとてもていねいになってきた子ども達。紅白帽の着用が徹底している子ども達等々・・・。

伸び代たっぷりの子ども達が育つ要因はどこにあるのでしょうか？

家庭や地域の教育力の高さはその一つに挙げられますが、何より、先生方の指導力の高さにあると思っています。

①　「振り返り」指導を徹底している。

→　指示して行動を変えることは簡単です。でも、考え方が変わってないので、子どもはまた繰り返します。課題を子どもに返し、子ども自身が振り返ることで、反省し考え、修正（よい行動に変える）します。

②　「聴く」力を身に付ける指導を徹底している。

→　品田先生もおっしゃっていましたが、「聞く・話す」は学びを推進する基本です。

③　教師の働きかけのバランスがよい。

→　パフォーマンス指導（規律重視）とメンテナンス指導（個別的、情緒的）を適宜、バランスよく行っている。だから、「こわいけど優しい先生」と信頼されている。

学習スキルとソーシャルスキルをセットで指導する　～対話的な学習の充実へ～

今年度の研究の柱は、「対話的な学習」の充実です。話す、発表するから「話し合う（比較・検討）」へとレベルアップした内容です。その充実に、品田先生の講義・演習はとても有意義でした。

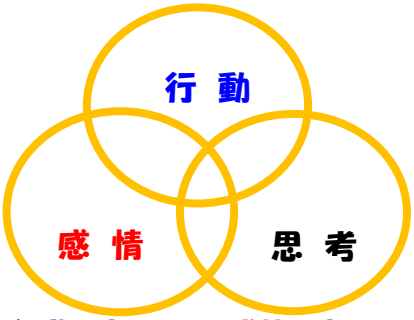
特に、「学習スキル」（話し合い型）と「ソーシャルスキル」（相手への配慮）をセットで指導していくことが必要であることを学びました。情意面も指導することで、話し合いは、「意味がある・解決できる」「楽しい」という考えや感情が生まれ、子ども達は、話し合いを主体的積極的に行うようになり、よりよい集団解決学習に高まります。

思考・感情・行動をセットにした指導を意識的に行う

先生方の振り返り指導と品田先生から学んだ演習は、一般化すると「思考・感情・行動」に視点を当て、それぞれを関連付けた指導といえます。これは、認知行動心理学の基本的な考え方です。

振り返り指導は、自分の行動や感情を振り返り、考え方を変容させる行為です。同時にメタ認知（自己を客観的に見ること）を鍛えています。授業での「まとめ」も同じ効果を発揮します。

「まとめ」を充実させ、自分の学び方やできるようになった喜びを振り返って明確化させましょう。また、友達と共有させ、学びの意味をしっかりとらえさせましょう。



行動が変われば、**感情**が変わる
感情が変われば　思考も変わる
思考が変われば　**行動**も変わる